



2024(令和6)年4月号

「四月と言えば…」

みなさんこんにちは。ようやく暖かい日が増えて過ごしやすくなってきましたね。

ところで、みなさんは四月と言うと何を連想しますか？就職情報会社の「マイナビ」が調査したところ、一位は桜・二位は入学式（入園式）・三位は新年度・新学期とのこと。まあ、順当な感じではありますね。ところが調査する会社が変わると結果に若干違いが出てきます。つぎはインターネット検索サイトの「ヤフー(YAHOO)」を見てみましょう。すると、一位は新学期・新年度ですが・二位は何と「花まつり(灌仏会)」だそうですよ！僧侶の立場から見ると嬉しいことではありますが実はちよつと意外でした(失言でしょうか)。

「はなまつり」は、お釈迦様の誕生を祝う行事で「灌仏会(かんぶつえ)」とも言い、お釈迦様が誕生したときのお姿をかたどった誕生仏の像に甘茶をかけ、誕生を祝います。

その「はなまつり」を東久留米分院でも四月十四日(日)午後1時から行います。もちろん、甘茶かけも行いますのでどうぞ足をお運びください。一緒にお祝いしましょう。

なぜ甘茶をかけるの？

いまさら聞けない仏事のハナシ

「花まつり」には、お釈迦様の像に甘茶をかけるのが習わしです。では、なぜ甘茶をかけるのでしょうか？これは、お釈迦様が誕生したときの言い伝えに理由があります。

お釈迦さまが誕生したときに、天から龍が降りてきて甘露の雨(甘露飴ではありません)を降らせたといい伝説に由来します。

蛇足ですが、甘茶と甘茶ヅル茶は全くの別物です。名前が似ているのでよく間違えられるのですが「甘茶」はユキノシタ科アジサイ属で、「甘茶ヅル」はウリ科アマチャヅル属です。

なお、甘茶には抗菌作用があるといわれており、花まつりに際して子供の健康を願って、甘茶を飲ませるといふ習慣もあります。

また、花まつりでは子供たちが「白いゾウ」の模型を引いて地域を練り歩くこともあります。これは、お釈迦さまのお母さんは、白いゾウが体に入る夢を見て、お釈迦様を身ごもったという言い伝えによるものです。

3月の東久留米分院の様子

春季彼岸会

3月20日(水) 午後1時～

ご講師: 山本 英哲 師(神奈川県 妙延寺)

当日は17名の方が聴聞され、不在経も10件を超える申し込みがありました。
今回のご講師は、ピアノやヴァイオリンの演奏もされる方で、お話の中で、楽器も演奏されつつ、お彼岸のお話をしてくださいました。



ハツラツと演奏される山本先生



過去帳・不在経も奉呈いたしました



3月が誕生日の方と



お約束の、お供物ジャンケン!

その他のお知らせ

東久留米分院からのお知らせ

【団体参拝の集合時間】

先月の寺報でご案内いたしました「親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要」団体参拝について、多数ご参加申し込みをいただきありがとうございました。

当日の集合時間につきまして下記のとおりとさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

記

集合時間 4月28日(日) 8時30分(受付後、9時までに席に本堂へ着席)

集合場所 本堂正面の大階段前

※全員がそろわないと受付できないので時間厳守でお願いします。

奉讃会からのお知らせ

【念仏奉仕講の活動日変更について】

東久留米分院の美化活動として毎月1日に「念仏奉仕講」を開催してまいりましたが、開催日が平日であることが多く、「日曜日だったら参加できるのに…」という声を多数いただきました。

そこで、伊藤主管とも相談し、今月からは念仏奉仕講の活動日を毎月第1日曜日に変更することといたしました。

4月の活動日は、7日の朝のお勤め後(8時頃から)に開催いたします。少しの時間でも構いませんので是非ご参加いただき、私たちのお寺「東久留米分院」に来られた方が誰でも気持ちよくお参りできるようにしましょう!

会長 熊谷 武

東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

▶ 4月の行事予定

灌仏会（はなまつり）

4月14日（日）午後1時～

講師：藤井 知己 師（茨城県・青蓮寺）

灌仏会（かんぶつえ）とは、お釈迦様の誕生を祝う法要です。お釈迦さまは、ネパールの「ルンビニ」という場所にある花園で誕生したと言われていることから別名「はなまつり」とも言います。

ご一緒に、お釈迦様のお誕生日をお祝いしましょう！

御命日晨朝 総参拝

4月16日（火）午前7時～

月に1度の親鸞聖人御命日に、一緒にお参りしませんか？ 参拝された方には、お供物（お菓子）をお配りしています。

▶ 5月の行事予定

東久留米分院 降誕会

5月19日（日）午後1時～

ご講師：村上 弘樹 師（神奈川県 自然寺）

降誕会（ごうたんえ）とは、親鸞聖人の誕生をお祝いする法要です。親鸞聖人が生まれなければ浄土真宗は無く、私たちが阿弥陀如来の救いに気付くことも無かったです。親鸞聖人がこの世に誕生されたことを共に感謝しましょう。

東久留米会館会報「ともしび」
通 刊 336号
発行日 2024年4月1日
発行者 伊藤 法友
住 所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電 話 042147416787

編集後記

いつも「ともしび」をお読みいただきありがとうございます。

さて、4月は出会いの季節と言われています。クラス替えや新入職員の入社などで新たな出会いが多い季節です。その初々しさを見て、初心を思い出し、心新たに1年間を送っていききたいものです。

先月のご進納

【お仏飯米】

熊谷 武様 山下 肇様

近藤敏之様

【飲料】

神谷正弘様

（順不同）

誠にありがとうございました。